

建築計画III(Architectural Planning III)

担当教員名	坂戸 省三、工藤 和美、高岡 伸一、渡辺 豪秀	
学科・専攻、科目詳細	建築学科 5年 通年 4単位 学修A 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-1(25%) E-1(25%) H-1(50%)
	JABEE基準1(1)	(a)(d)(f)
科目の概要	建築計画 1,2 の学習成果の上に、より広範な観点から建築計画を考究し、今日の具体的な問題を解決するための知識と計画技術を学習する。建築計画における多様な問題や考え方、取り組みについてそれを取り巻く様々な社会的視点を取り上げ事例を通して考察する。また、環境に関わる建築計画における現代的課題に関する理論、手法についても学ぶ。室津（江戸時代参勤 交代で栄えた港町、兵庫県たつの市）において歴史、町並み、景観の観点から現地調査をおこない、報告書を作成する。	
テキスト(参考文献)	20世紀の建築ザイン／八代眞己／彰国社 他 は授業ごとに作成した資料を配付する。	
履修上の注意	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が180時間に相当する学習内容である。建築計画の応用的な考え方を身につけ、卒業研究等において総合化できるよう取り組むこと。見学旅行においては、室津の課題のヒントとなるものを収集すること。建築史と都市地域計画の履修が望ましい。	
科目の達成目標	(1) 住宅や建築、都市を計画する際、重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や技術を習得する。（学習教育目標（A-1）） (2) 講義で得られた建築計画の応用的な知識や考え方を基礎に、課題テーマに対して自分の考えをまとめ、意見発表する能力を習得する。（学習教育目標（E-1）） (3) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築計画理論を理解し、歴史的文化的社会的環境が建築にもたらした影響の蓄積を背景に組み立てられた建築計画の考え方の要点を修得する。（学習教育目標（H-1））	
自己学習	目標を達成するためには、授業以外にレポート等の課題に積極的に取り組むこと。教科書や配付資料を利用して学習すること。 自己学習の課題は次の通りである。1) 与えられたテーマに即したリサーチを基に都市、建築空間を創造的に発見すること。2) 見学旅行において課題とヒントとなるものを収集し、計画の提案をレポートすること。3) 都市や建築空間についての学習や見学を基に考えが述べられること。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	(1) 建築計画理論において自然や社会との共生に関係する事項の理解について、定期試験（60%）とレポート（40%）により評価する。（前期後半） (2) 建築計画の応用的な課題に関するポスター及びその発表（70%）と、レポート及びその発表（30%）により評価する。（後期前半） (3) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築設計理論、歴史的文化的社会的環境が建築にもたらした影響に関する事項の理解について定期試験（60%）と、レポート（40%）により評価する。（前期前半・後期後半）	
	成績は上記（1）を 25%、（2）を 25%、（3）を 50%で評価し、総合評価として 60%以上達成した者を合格とする。	
連絡先	sakato@akashi.ac.jp, kkudoh@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	ガイダンス 前期授業の狙いと、建築や都市が抱える現代的課題を、事例を通じて概説する。
第2週	都市問題のはじまりといま 都市問題のはじまりから、近代都市と建築について考察する。現代の都市問題についても言及する。
第3週	近代の都市と建築（その1） 田園都市からアテネ憲章（CIAM）の都市論を中心に、建築家が提案したモダニズムの理想都市の背景と、現代の都市と建築の関連について考察する。
第4週	近代の都市と建築（その2） モダニズムの建築思想を中心に再考する。近代建築が目指したもの、排除したものは何かを考える。
第5週	現代の都市と建築（その1） 現代の日本の建築が置かれた状況と、取り組むべき課題について考察する。建築・都市がもたらした問題と、現代の環境問題について考察する。
第6週	現代の都市と建築（その2） 現代の日本の都市が抱える諸問題 都市のパブリクスペースの役割，広場の成り立ち，サードプレイスの意味について学ぶ。
第7週	都市の共同空間 アジア，ヨーロッパ，アフリカの広場や共同空間について事例を通して学ぶ。
第8週	中間試験
第9週	大阪という都市の現在 大阪の都心部を事例に、現代都市の課題と取り組みについて紹介する。
第10週	都市と歴史（その1） 大阪の都心部の発展と建築の変遷を、歴史的に再考する。近世から昭和初期まで。
第11週	都市と歴史（その2） 大阪の都心部の発展と建築の変遷を、歴史的に再考する。戦後から現在まで。
第12週	都市の文脈 計画の手がかりとなる、現代の都市に潜在する特性を見出す視点を学ぶ。
第13週	フィールドワークの方法 計画の手がかりを都市の現場から発見するフィールドワークの手法を学ぶ。
第14週	地域資源とまちづくり 地域資源を活かしたまちづくりの方法を学ぶ。
第15週	地域資源とまちづくり 大阪の都心部を事例に、地域資源を活かしたまちづくりの手法を学ぶ。
期末試験	

授業の計画・内容	
第16週	後期前半課題（室津の調査と報告書の作成）について 課題の説明をおこなう。また現地調査を行う準備として、室津に関する歴史、家屋、町並み等について学習する。
第17週	室津現地調査 室津へ行き、歴史、景観の観点から町並み、資料館、海を望む風景等を調査する。また室津在住でまちづくりに尽力されている方から話を聞く。なお第 17、18週分を一日にまとめて実施。
第18週	室津現地調査 室津へ行き、歴史、景観の観点から町並み、資料館、海を望む風景等を調査する。また室津在住でまちづくりに尽力されている方から話を聞く。なお第 17、18 週分を一日にまとめて実施。
第19週	レポートの発表 室津の提案に活かせるような見学旅行中に目に付いたことがらを簡単なレポートにして発表。
第20週	計画内容の検討 課題について各人のアイデアを出し、教員を含めて全員でディスカッションを行う。ポスターの作成。
第21週	計画内容の検討 課題について各人のアイデアを出し、教員も含めて全員でディスカッションを行う。ポスターの作成。
第22週	計画内容の検討 課題について各人のアイデアを出し、教員も含めて全員でディスカッションを行う。ポスターの作成。
第23週	中間試験時 報告書（ポスター）の発表 報告書（ポスター）を発表する。相互に意見の交換を行う。
第24週	建築構成の手法（その 1） メタボリズム以降の、現代を代表する建築家の思想と理論（メタボリズム、オランダ構成主義）
第25週	建築構成の手法（その 2） 現代を代表する建築家の思想と理論（バナキュラー建築とリージョナリズム）
第26週	建築構成の手法（その 3） 現代の課題と代表する建築家の思想と理論（環境問題）
第27週	現代建築設計の理論と実践（その 1） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義
第28週	現代建築設計の理論と実践（その 2） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義
第29週	現代建築設計の理論と実践（その 3） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義と見学
第30週	現代建築設計の理論と実践（その4） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義と見学
期末試験	